

# ロイコトリエン受容体拮抗薬 Up-To-Date

*Leukotriene receptor antagonists Up-To-Date*

藤澤 隆夫

*Takao Fujisawa*

国立病院機構三重病院院長・アレルギーセンター

## Summary

ロイコトリエン受容体拮抗薬(LTRA)はシスチニルロイコトリエン(CysLT)が結合するCysLT1受容体に拮抗する薬剤で、CysLTの多彩な生理活性を抑制、特に好酸球性炎症を抑制することで、気管支喘息(以下、喘息)およびアレルギー性鼻炎に対して有効とされる。気管支喘息に対する臨床効果は吸入ステロイド薬(ICS)のほうが優れるとされ、ガイドラインにおける第1選択薬ではないが、アドヒアランス不良患者も含めたreal worldの後方視的検討では同等であったという結果があることに留意が必要である。一方、ガイドラインに示された適応以外には、乳幼児における気道ウイルス感染後の反復喘鳴(喘息)発症予防効果、重症喘息における気道リモデリング予防効果の可能性が注目されている。

## Key words

CysLT1 受容体, 好酸球性炎症, 長期管理薬, RS ウイルス細気管支炎, 気道リモデリング

## はじめに

ロイコトリエン受容体拮抗薬(leukotriene receptor antagonists ; LTRA)は、気管支喘息(以下、喘息)とアレルギー性鼻炎の基本治療薬のひとつである。ガイドラインにおいては、成人喘息では吸入ステロイド薬(inhaled corticosteroids ; ICS)の併用薬として(ステップ1でICSが使用できない場合にはLTRA単剤)、小児喘息では成人と同様ICSの併用薬であるとともに、ステップ1の追加治療薬、ステップ2ではICSと同列の第1選択薬として(特に低年齢において)位置づけられている。アレルギー性鼻炎では鼻閉型および充全型の第1選択薬となっている。ステロイドとは異なる機序での抗炎症作用によって、これら2つの疾患への有効性を示す多くのエビデンスが報告されているからである。本稿では、LTRAの作用機序を整理したうえで、喘息、特に小児への適応を中心に最近報告されたエビデンスと今後の課題について述べる。